5　いすみ市

千葉日報　平成 17 年 12 月 6 日付掲載

「いすみ市」誕生

夷隅、大原、岬の三町が合併し、新市「いすみ市」が五日、誕生した。面積は百五十七・五平方キロ、人口約四万三千人。「平成の大合併」では、野田、檜、鴨川、旭に続いて県内五番目になる。町だけでは初の合併。ひらがなを市の名称にしたのも初めて。

市役所（旧大原町役場）と夷隅、岬の各総合支所で開庁式が行われ、久我洋・市長職務執行者（旧夷隅町長）や旧三町の議長と職員が、「いすみ市」の銘板を除幕するなど新市の門出を祝った。

（関連記事17面）

新市の門出祝う

住民の声大切に発展を

市長選は25日に投開票

いすみ市

新生「いすみ市」が五日誕生した。合併協議の途中で中核の勝浦市が急ぐと離脱、さらに大多喜、御宿町も新市に加わらないまま、わずか三町の合併となったが、開庁式で久我洋・市長職務執行者（旧夷隅町長）は三町の努力の結果」と強調した。

（本文1面）

華美な式典は行わず、市役所と総合支所になる夷隅庁舎（旧夷隅町役場）、岬庁舎（旧岬町役場）でそれぞれ開庁式を実施。久我氏は「それぞれ歴史と特徴を持った三町が一つになれたのは、町民の努力の結果。幾躍的な発展を遂げるために一番重要なのは住民の声を大切にすること」と職員を励ました。

その後、課長職以上の管理職四十三人に久我氏から辞令が交付され、日常業務がスタート。年後には早速、選挙管理委員会が、市長選の日程を十八日告示、二十五日投開票と決めた。同選挙には旧大原町長の近藤万芳氏（さん）と旧岬町長の太田浄氏（さん）が出馬表明している。

いすみ市は面積百五十七・五平方キロ、人口約四万三千人。名称が変わる公的証明はあるが、電話、郵便番号など住民生活に影響を及ぼす変更はほとんどない。住民票の交付、戸籍の届け出などは総合支所となる旧町役場でも手続きできる。住所表示は旧夷隅、大原地区は町がいすみ市になるだけだが、旧岬地区は市名の後に岬町を付ける。

議会は十三日から十五日の三日間の日程で臨時会を召集し、議長選出などを行う。議長は旧三町の四十六人（欠員二）が特例議員で、来年十一月三十日まで務め、以後は定数二六になる。議場は市役所大会議室が使用される。

また合併に伴い同日、大原警察署が「いすみ警察署」に名称を変更。これまで勝浦署の管轄だった旧夷隅町はいすみ署管内になる。そのため運転免許の更新受け付けなどはこれまでの勝浦署大多喜分庁舎からいすみ署に変わる（優良運転者はどこの署でも可）。

難産の末"一部合併"

明るい展望作り不可欠

夷隅地域

九四年かかった難産の末に夷隅地域の合併が"一部"実現した。二〇〇一年十二月に始まった夷隅郡市六市町の合併話は、住民投票（御宿町）、署名運動（勝浦市）など紆余（うよ）曲折をへて、勝浦市、大多喜町の離脱により二度協議会が解散。これで完全に頓挫したと思われたが、ことし入ってから財政難からの脱却が急務な三町が急ピッチで詰をまとめ、水面下で選挙戦が始まり、さまざまな怪文書が飛び交ったといえない。

岡町の町長が激突する事態に。合併調印直後には「合併調印直後には市役所の位置、合併期日などで大原町と岬町が解散。これで完全に頓挫したと思われたが、ことし入ってから財政難からの脱却が急務な三町が急ピッチで詰をまとめ、水面下で選挙戦が始まり、さまざまな怪文書が飛び交ったといえない。

岡町の町長が激突する事態に。合併調印直後には「合併期日などで大原町と岬町が解散。これで完全に頓挫したと思われたが、ことし入ってから財政難からの脱却が急務な三町が急ピッチで詰をまとめ、水面下で選挙戦が始まり、さまざまな怪文書が飛び交ったといえない。

市役所の位置、